

News Letter

2023
Spring issue

令和5年5月10日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*

年報
体育社会学
contents
2023 No.4
[2023年] volume 04
Japan Society of Physical Education,
Health and Sport Sciences Since 1962

■「学会誌」としての「年報体育社会学」石澤 伸弘

特集論文

高尾 将幸 特集のねらい
中野 貴博 子どもの運動習慣および体力・運動能力変化の性差
須永 美歌子 性差を考慮したコンディション管理の必要性
宮本 幸子 母親がささえる子どものスポーツ
—実態と研究課題—

原著論文

浜田 雄介 <第3のアスリート>のキャリア形成における選択の
合理性：あるトライアスロン選手のライフストーリーから
平賀 慧 肢体不自由養護学校における「医学」と「教育」の
せめぎあい：1971年学習指導要領の「養護・訓練」をめぐる
小池・成瀬論争に着目して
谷口 勇一 中学校部活動の地域移行動向をめぐる現場の
リアリティ：惹起されつつある「揺らぎ」に体育社会学は

日本体育・スポーツ・健康学会
体育社会学専門領域

事務局：〒002-8502

札幌市北区あいの里五条三丁目 1-5

北海道教育大学 札幌校

石澤 伸弘 研究室内

E-mail:

ishizawa.nobuhiro@s.hokkyodai.ac.jp

< 目 次 >

「年報 体育社会学 第4号(2023)」の
発刊について……………1

「年報 体育社会学 第5号(2024)」の
原稿募集について ……2

日本体育社会学会 第1回大会について…………2

一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会
第73回大会について……………3

アーカイブ化 ご協力をお願い……………5

事務局より……………6

令和5年3月31日に「年報 体育社会学 第4号(2023)」が発刊されました。

- 巻頭言 石澤 伸弘
「学会誌」としての「年報体育社会学」
- 特集論文 高尾 将幸
特集のねらい

中野 貴博
子どもの運動習慣および体力・運動能力変化の性差

須永 美歌子
性差を考慮したコンディション管理の必要性

宮本 幸子
母親がささえる子どものスポーツ —実態と研究課題—
- 原著論文 浜田 雄介
〈第3のアスリート〉のキャリア形成における選択の合理性：あるトライアスロン選手のライフストーリーから

平賀 慧
肢体不自由養護学校における「医学」と「教育」のせめぎあい：1971年学習指導要領の「養護・訓練」をめぐる小池・成瀬論争に着目して

谷口 勇一
学校部活動の地域移行動向をめぐる現場のリアリティ：惹起されつつある「揺らぎ」に体育社会学はどう相對するべきなのか

白石 翔, 原 祐一
甲子園球児にとっての儀礼：球児が高校生に戻るために
- 書評 甲斐 健人
運動部活動の社会学：「規律」と「自主性」をめぐる言説と実践／
下竹 亮志

大勝 志津穂
現代社会とスポーツの社会学／
高峰 修・岡本 純也・千葉 直樹・東原 文郎・横田 匡俊
- 2022年度専門領域活動報告
- 編集後記 稲葉 慎太郎

「年報体育社会学」編集委員会では、現在第5号（2024年3月末刊行）の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2024（令和6）年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第5号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行（第6号）を待たずにJ-stageへ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様には、是非とも「年報体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしくお願いたします。詳細は、「投稿に関する諸規程等一覧」をご覧ください。

http://pesociology.jp/wp/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20181008.pdf

「年報体育社会学」J-STAGEはこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

日本体育社会学会 第1回大会について

標記学会大会が下記の内容で開催されます。詳しくは以下のHPをご覧ください。

<https://jssspe.org/taikai>

- 開催期間：2023年6月24日（土）・25日（日）の二日間
- 開催形式：対面形式（研究委員会企画等のシンポジウムのみ後日配信を検討します）
※新型コロナウイルス感染症の急激な拡大が懸念される場合、オンライン開催へと切り替えることがあります。
- 主催：日本体育社会学会 <https://jssspe.org/>
- 日程：2023年6月24日（土）～6月25日（日）

第1回日本体育社会学会大会（2023年6月24日・25日：立教大学（池袋キャンパス）プログラム											
	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
	評議員会	理事会	受付	個人発表	個人発表	実行委員会・研究委員会企画		懇親会			
9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00			
受付	個人発表			総会	研究委員会企画		表彰・エンディング				

5. 開催場所：立教大学池袋キャンパス
※総会は対面開催のみ

6. 今後の主なスケジュール

事項	締切日
一般研究発表申込締切	2023年5月15日(月) 17:00まで
一般研究発表抄録提出締切	2023年5月29日(月) 17:00まで

※参加のお申し込みは当日まで受け付けております。

7. 大会参加及び発表申込み

- ・大会参加及び発表を希望される方は、下記、日本体育社会学会(大会)ホームページの専用フォームからお申込みください。

参加申込フォーム：<https://jssspe.org/taikai/taikai-form>

※「大会参加及び発表申込み」に関するその他の情報は、上記した学会大会ホームページ(<https://jssspe.org/taikai>)よりご確認ください。

一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会について

標記学会大会が下記の内容で開催されます。詳しくは以下のHPをご覧ください。

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jspehss73/top>

- テーマ：知徳体を育む「体育とスポーツ」の未来
- 会期：2023年8月30日(水)～2023年9月1日(金)
- 会場：同志社大学 今出川校地 良心館・寒梅館
(〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入)
- 開催形式：対面式
※コロナの感染状況により、開催形式をオンラインに変更する場合があります。
- 大会スケジュール：大会1日目(8月30日) オープニングセレモニー／総会／
テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム／
基調講演／本部企画シンポジウム
大会2日目(8月31日) テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム／
本部企画シンポジウム
大会3日目(9月1日) 専門領域別研究発表並びにキーノートレクチャー

	午前		昼	午後		夕方
1 日 目	オープニング 総会	テーマ別研究発表 (A,B,C) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	ランチョン セミナー 名誉会員 懇談会 (昼休憩)	テーマ別 シンポジウム(A) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	基調講演/ 本部企画 シンポジウム (1)	
2 日 目	テーマ別研究発表 (A,B,C) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	テーマ別 シンポジウム(B) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	ランチョン セミナー 地域協力学会 連絡会議 (昼休憩)	テーマ別研究発表 (A,B,C) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	テーマ別 シンポジウム(C) スポーツ文化 学校保健体育 競技スポーツ 生涯スポーツ 健康福祉	本部企画 シンポジウム (2)
3 日 目	専門領域別企画 研究発表／キーノートレクチャー		専門領域 連絡会議 (昼休憩)	専門領域別企画 研究発表／キーノートレクチャー		

■ 基調講演

「知育、徳育、そして今、体育を考える」

“Intellectual Education, Moral Education, and now time to focus on Physical Education”

八田英二 (同志社 総長・理事長)

■ 学会本部企画

シンポジウム

- (1) 「知徳体を育む」 体育・スポーツ
- (2) これからのユース・スポーツを考える
—運動部活動の地域移行をめぐる—

■ 応用(領域横断)研究部会企画

スポーツ文化研究部会シンポジウム

- (A) スポーツを通じて社会的な不平等を是正できるか?
- (B) 「多様性」を実践するとは
—その理想と難しさについて—
- (C) スポーツ文化の浸透戦略 (3)
—関わりの拡張に向けて—

学校保健体育研究部会シンポジウム

- (A) 大学体育の社会的使命とその実現可能性を考える
—大学体育の社会的使命をいかに実現させるか—
- (B) より良質な保健体育授業の具体像を考える その3
—子どもたちの「豊かなスポーツライフ」の実現に向けて、教師が身に付けるべき資質・能力とは—
- (C) 科学的エビデンスからみた保健体育のカリキュラムと学習指導
—これからの保健体育が目指す教育と研究のかたち—

競技スポーツ研究部会シンポジウム

- (A) トップアスリート養成の拠点としての大学の 意義と問題点Ⅲ
—トップアスリートの高等学校から大学への接続に着目して—
- (B) ジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成
- (C) ハイパフォーマンススポーツにおける年代に応じたトレーニング

生涯スポーツ研究部会シンポジウム

- (A) 共生社会が生涯スポーツと共存する持続可能な協働システム構築
—持続を阻害する問題点や課題は何か—
- (B) 「スポーツある Well-Being」へ
- (C) 国民のスポーツ権を保障するための施策立案に向けて
—施策立案者との共進化のために研究者ができること—

健康福祉研究部会シンポジウム

- (A) ヘルスリテラシーから考える体力・運動の在り方
- (B) 認知と運動の支援
—テクノロジーの活用—
- (C) 基礎研究と実践（指導、支援）の橋渡しで心身機能の低下を予防する

■ 専門領域別企画

本専門領域で企画する内容および研究発表につきましては後日、お知らせ致します。

アーカイブ化 ご協力をお願い

—広報委員会—

現在、日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域の発表論文集・抄録集をアーカイブ化しています。第15号～現在までの論文集・抄録集については体育社会学専門領域ホームページ上で公開いたしました。第14号までのアーカイブ化については事務局で保管している現物が無いことから作業を中断しております。もし、アーカイブ化にご協力いただける方がおられましたら、下記アドレスにご連絡いただけないでしょうか。

事務局メールアドレス：taishajimukyoku@gmail.com（事務局専用）

なおPDFにするにあたり、背表紙を約1cm程度切り落とす必要がありますので、その点をご了承いただける方がおられれば幸いです。何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

事務局より

1. 会員動向：体育社会学専門領域の会員数は、2023年5月8日現在346名です。
2. 会員情報変更：日本体育・スポーツ・健康学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移住所・所属などの変更があった場合は、すみやかに「会員情報変更届」（『体育学研究』に添付）を学会本部事務局に FAX または封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
3. 会則および諸規定等の改訂版について：諸規定等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。

事務局メールアドレス：taishajimukyoku@gmail.com（事務局専用）

あとがき

News Letter 2023 Spring Issue をお届けいたします。

今号は、「年報 体育社会学」「日本体育社会学会 第1回大会」「日本体育・スポーツ・健康学会 第73回大会」に関する事務的なお知らせのみの掲載となりました。News Letter では、できるだけ会員の方々の生の声をお届けするように心がけてきましたが、今回はそれがかなわず大変残念でした。

ただ一方で、今号において、体育社会学専門領域から新たに設立される日本体育社会学会の記念すべき第1回大会の開催をお知らせできたことを大変嬉しく思います。日本体育社会学会は、長い準備期間を経てようやくその設立にこぎつけたわけですが、今後体育社会学に関わる研究成果の発表の場として非常に重要な役割を果たしていくことになると思われまふ。まずは今、その最初の学会大会への参加を楽しみにしているところです。

さて、5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが5類に移行し、社会はようやくコロナ禍前の生活に戻りつつあります。私自身はコロナ禍において、それ以前は考えもしなかったことを良くも悪くも様々に経験し、貴重な気づきの機会を得ることができたように思います。会員のみなさまにとって、このコロナ禍がどのような経験として記憶に刻まれることになったのでしょうか。

今号をもちまして、伊藤克広会員、常行泰子会員とともに務めてまいりました現広報委員会による News Letter の発行は最後になります。これまで5つの号の編集を担当させていただきました。News Letter をお読みいただいた会員のみなさま、また原稿をお寄せいただきました会員のみなさまに心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

各会員のみなさまにおかれましては、引き続きくれぐれもお身体ご自愛ください。

藤井雅人（広報委員会）